

令和7年度第2回水道水質検査法検討会 議事要旨

1 日時

令和7年12月10日（水）13：30～18：00

2 場所

対面方式とオンライン方式のハイブリッド会議

3 出席者（敬称略）

委員 内山奈穂子（座長）、大窪かおり、北本靖子、小坂浩司、小林憲弘、神野透人、
鈴木俊也、高見澤雅彦、中村弘揮、広木孝行、峯岸俊貴

事務局 東利博、宇津木紀昭、山本周

（以上、環境省水・大気環境局環境管理課水道水質・衛生管理室）

福田功、築山直弘

（以上、環境省水・大気環境局環境管理課）

4 議題

（1）検査方法告示の改正について

（2）その他

5 議事

（1）検査方法告示の改正について

○検査方法告示等の改正事項について

「水質基準に関する省令の規定に基づき環境大臣が定める方法」（平成15年厚生労働省告示第261号。いわゆる「告示法」。）、「資機材等の材質に関する試験」（平成12年厚生省告示第45号）及び「給水装置の構造及び材質の基準に係る試験」（平成9年厚生省告示第111号）に所要の改正を行うことについて、令和7年10月1日から10月30日までの間、意見募集を行った結果、36件の意見が寄せられた。「水質基準に関する省令の規定に基づき環境大臣が定める方法」については原案から一部変更を行った上で改正を行うことが了承された。それ以外については原案のとおり改正を行うことが承認された。

○連続流れ分析を用いた金属一斉分析法について

水質管理目標設定項目や水道施設の技術的基準を定める省令の規定に基づく浄水又は浄水処理過程における水に注入される薬品等に係る基準の金属類について、告示法別表第6の2に位置づける予定の連続流れ分析－誘導結合プラズマ－質量分析装置（ICP-MS）を用いる金属類の一斉分析法により、測定可能かどうか検証した。その結果、銀以外の金属類で試験方法として採用可能であることを確認した。

○今後の標準検査法検討の進め方について

検査法開発の提案について、環境省の考え方や優先順位付けなどを整理するとともに、提案のあつた検査方法の評価方法について改めて整理した。

○ヘッドスペース-GC-MSによるシアン化物イオン及び塩化シアン分析法について

ヘッドスペース-GC-MS を用いたシアノ化物イオン及び塩化シアノの分析方法について報告があつたが、現行のシアノ分析（告示法別表第 12 イオンクロマトグラフ-ポストカラム吸光光度法）と分析機構が異なることから生じる測定値の差異などについて、さらなる検証が必要と判断された。

○固相抽出-液体クロマトグラフ-タンデム質量分析計 (LC-MS/MS) を用いたフェノール類分析法について

告示法別表第 29 の 2 の固相抽出-液体クロマトグラフ-質量分析計によるフェノール類分析法では大気圧化学イオン化法 (APCI 法) が規定されているが、エレクトロスプレーイオン化法 (ESI 法) でも測定が可能か検証した。その結果、使用する移動相について検証すべき事項などが生じたため、引き続き検証を行うこととなった。

○誘導体化-LC-MS/MS によるフェノール類の直接注入分析法について

誘導体化後に LC-MS/MS を用いて直接注入法 (ESI 法) でフェノール類を測定する方法が報告され、今後バリデーション試験等を実施して、検査方法告示へ追加可能か検証していくこととなった。

○PFOS 及び PFOA の検査方法について

液体クロマトグラフ-タンデム質量分析計 (LC-MS/MS) による PFOS 及び PFOA の直接注入分析法について、これまでの諸課題について整理し、課題解決に向けて検証を継続していくこととなった。

(2) その他

○PFOS 及び PFOA の水質検査方法に係る質疑応答集について

PFOS 及び PFOA の検査が告示法に位置づけられることを受けて、「PFOS 及び PFOA の水質検査方法に係る質疑応答集」を作成することが提案され、今年度中に国立医薬品食品衛生研究所 Web ページにおいて公表する方針が承認された。

○水道用資機材等の材質に関する試験項目の LC-MS/MS による一斉分析法の検討について

N,N-ジメチルアニリンをはじめとする「水道施設の技術的基準を定める省令」において溶出基準が定められている物質について、LC-MS/MS による一斉分析法が報告され、今後バリデーション試験等を実施して、資機材等の材質に関する試験等へ追加可能か検証していくこととなった。

以上